群馬県立県民健康科学大学大学院
診療放射線学研究科　3つのポリシー

●アドミッション・ポリシー

Ⅰ．　求める学生像

＜博士前期課程＞

診療放射線学研究科博士前期課程では、診療放射線学に関わる実践的な問題解決能力を持つ高度医療専門識者、研究者及び教育者を養成するため、次のような学生を求めています。

1. 診療放射線学の教育を受けるための基礎学力を持っている人
2. 診療放射線学に対する深い関心と強い目的意識を持っている人
3. 診療放射線学における課題を自ら見いだし解決する意欲を持っている人
4. 診療放射線学の修得を通して広く社会へ貢献する意欲を持っている人
5. 診療放射線学を基礎とした高度医療専門職者、研究者、教育者を目指している人

＜博士後期課程＞

診療放射線学研究科博士後期課程では、診療放射線学に関わる研究成果を産出しうる高度な能力を持ち、研究成果について群馬県をはじめ全国各地域の放射線診療に創造性をもって展開できる人材を養成するため、次のような学生を求めています。

1. 診療放射線学研究を進めるための高い学力を持っている人
2. 診療放射線学に対する深い関心と強い目的意識を持っている人
3. 診療放射線学における課題を自ら見いだし解決する意欲を持っている人
4. 診療放射線学の修得を通して広く社会へ貢献する意欲を持っている人
5. 診療放射線学分野の臨床研究者及び教育者、並びに高度医療専門職のリーダーを目指している人

Ⅱ．　入学前に身につけてきてほしいこと

＜博士前期課程＞

1. 語学、専門科目を中心とした幅広い基礎学力
2. 診療放射線学に対する深い関心と強い目的意識
3. 課題を自ら見いだし解決する意欲
4. 社会へ貢献する意欲

＜博士後期課程＞

1. 語学、専門科目を中心とした高い学力
2. 診療放射線学に対する深い関心と強い目的意識
3. 課題を自ら見いだし解決する意欲
4. 社会へ貢献する意欲
5. 研究遂行に必要な協調性・リーダーシップ・行動力

Ⅲ. 入学者選抜の基本方針

＜博士前期課程＞

一般選抜、社会人特別選抜共通

1. 外国語試験、出願書類、口述試験により、語学、専門科目を中心とした幅広い基礎学力を評価します。
2. 出願書類を踏まえ、口述試験により、診療放射線学に対する深い関心と強い目的意識を評価します。
3. 口述試験により、課題を自ら見いだし解決する意欲を評価します。
4. 出願書類を踏まえ、口述試験により、社会へ貢献する意欲を評価します。

＜博士後期課程＞

一般選抜、社会人特別選抜共通

1. 外国語試験、出願書類、口述試験により、語学、専門科目を中心とした高い学力を評価します。
2. 出願書類を踏まえ、口述試験により、診療放射線学に対する深い関心と強い目的意識を評価します。
3. 口述試験により、課題を自ら見いだし解決する意欲を評価します。
4. 出願書類を踏まえ、口述試験により、社会へ貢献する意欲を評価します。
5. 出願書類を踏まえ、口述試験により、研究遂行に必要な協調性・リーダーシップ・行動力を評価します。

● カリキュラム・ポリシー

＜博士前期課程＞

【教育課程編成の基本方針】

診療放射線学研究科博士前期課程には、放射線画像検査学分野および放射線治療学分野を設置し、両分野に共通する共通科目、各分野に対応する専門科目、ならびに診療放射線学の研究能力育成を目的とした特別研究を配置する。

また、量子物理学、医学物理、画像解析、先端放射線治療などの体系的教育プログラムで構成された医学物理コースを編成する。

- 共通科目：診療放射線学に関連する倫理、医療安全、研究法、医療情報管理などを含む科目で構成し、専門分野を超えた学際的視点や保健医療分野の俯瞰的理解を育成する。
- 専門科目：画像解析、読影技術、治療計画・線量分布解析等、分野特有の専門知識と応用力を養成するための科目で構成する。
- 特別研究：診療放射線学の課題に対して研究的アプローチを実践し、論理的・科学的思考に基づく問題解決能力を育成する。

【教育・学修方法に関する方針】

1. 各学生の学修・キャリア目標や関心に応じて、研究指導教員が個別に履修・研究指導を行う体制とする。
2. 知識修得を目的とする科目は講義形式、技能・応用を重視する科目は演習形式または講義・演習併用形式を原則とする。
3. 研究活動については、研究指導教員を責任者とする集団指導体制を構築し、セメスターごとの研究指導計画を作成・共有し、進捗確認を行う。
4. 診療放射線学分野では、ICT・画像処理ソフトを活用した実践的学修を重視し、オンライン・オンサイトのハイブリッド型指導も導入する。
5. 学生同士や他分野の研究者・医療職との協働的ディスカッションを通じ、汎用的能力やチーム医療に関する実践力の涵養を図る。
6. 医学物理教育においては、医学物理士認定機構に準拠した講義・演習を整備し、臨床現場で応用可能な知識・技能を養成する。

【学修成果の評価方針】

- 各科目の評価は、シラバスに明記された到達目標に基づき、筆記試験、レポート、プレゼンテーション、演習成果等の複数手段で達成度を厳格に評価する。
- 成績評価に異議がある場合には申し立て制度を設け、評価の公正性・透明性を担保する。
- 特別研究（修士論文）は、複数教員による審査体制の下、研究計画・進行・成果発表・

論文の質を総合的に評価する。
- 履修内容とディプロマ・ポリシーとの一貫性・整合性をカリキュラムマップ、カリキュラムツリー、ナンバリングにより可視化し、e-ポートフォリオを活用した学修状況の自己評価・教員評価を行う。

＜博士後期課程＞

【教育課程編成の基本方針】

博士後期課程においては、診療放射線学の更なる発展に寄与する高度な専門家・研究者の育成を目的とし、放射線画像検査学分野および放射線治療学分野における高度専門科目、共通科目、特別研究Ⅱを配置する。

本課程では、独創的研究の展開や国際的な学術活動に貢献できる研究能力、教育能力、マネジメント能力の育成に重点を置いた体系的な教育課程を編成する。

【教育・学修方法に関する方針】

1. 博士論文作成を中心とした研究活動を重視し、年度当初に提出される研究指導計画に基づき、研究指導教員を責任者とする複数教員による継続的な指導を実施する。
2. 学生は研究テーマに関連した高度な講義・演習を選択履修し、実践力を伴った専門性を深化させる。
3. 年 2 回の中間報告により、進捗や問題点を客観的に評価・改善する仕組みを設ける。
4. 学生の主体性と独創性を引き出すために、課題発見型・体験型学習を取り入れ、教育内容を理論と応用の双方から支援する。

【学修成果の評価方針】

- 授業科目の成績評価は、シラバスに記載された目標に対する到達度を、課題の達成度・演習内容・発表・レポートなど多角的な観点から総合的に実施する。
- 学位論文は、複数名で構成された研究審査委員会の委員が論文審査基準に基づいて厳格かつ客観的に審査を行う。評価にあたり論文の新規性、有効性・有用性、信頼性を重視する。
- DP との整合性を可視化するために、カリキュラムマップ、アセスメント・ポリシー、e-ポートフォリオを用いて、学修成果を体系的に記録・分析する。
- 成績評価に対する異議申し立て制度により、教員と学生間の意思疎通を図り、評価の透明性を確保する。

● ディプロマ・ポリシー

＜博士前期課程＞

① 診療放射線学に関する高度な知識を修得し、専門分野の研究動向を把握していること

② 研究遂行に必要な幅広い知識、手法・技術を身につけ、論理的思考に基づき主体的に実施できること

③ 医療専門職としての倫理観やコミュニケーション能力を身につけていること

④ 研究チームの一員として、協働して研究課題を立案し、解決できること

⑤ 科学的根拠に基づいた研究を実施し、国内外に成果を発信できること

＜博士後期課程＞

① 診療放射線学に関する高度な知識を修得し、専門分野について独創的な研究課題を設定できること

② 大学及び大学院教育を担える高度な教育能力を身につけていること

③ 医療現場における諸問題を解決できる広い視野と洞察力を有し、研究心をもって問題解決に取り組めること

④ 放射線技術部門においてリーダーシップを発揮できるとともに、他の医療専門職との連携を確立することによってマネジメント能力を発揮してチーム医療推進できること

⑤ 診療放射線学における科学的根拠を構築するための研究を展開し、学際的研究・国際的研究に寄与できること